

飼料用米向け早期栽培用多収水稻品種「西南160号」の特性

飼料用米向けで、いもち病に強い日本型多収品種「西南160号」を育成

背景・目的

- ・食味重視の主食用向けの米生産に加え、飼料用米、加工用米などの戦略作物の生産への対応が必要
- ・国が指針で示す早期栽培用飼料用米多収品種は、いずれもインド型由来であり、病害虫抵抗性が劣る
- ・本県に適した早期栽培における飼料用米向けの日本型多収品種の開発が急務

成果の内容

来歴

いもち病に強い

母: ふ系226号

「西南160号」

父: 西南136号

なつほのか: 多収、高品質

平成21年交配

平成29年度

県農業開発総合センター育成



- 早期栽培用中生種(「イクヒカリ」に比べて出穂期が1日遅い)
- 「イクヒカリ」に比べて稈長は長く、「コシヒカリ」と同程度
- 耐倒伏性は「イクヒカリ」よりやや弱く、「コシヒカリ」より強い
- 収量性は「コシヒカリ」「イクヒカリ」より高い。粒形は短粒(日本型)
- いもち病真性抵抗性遺伝子を持つと推定され、現状ではいもち病は発生しない

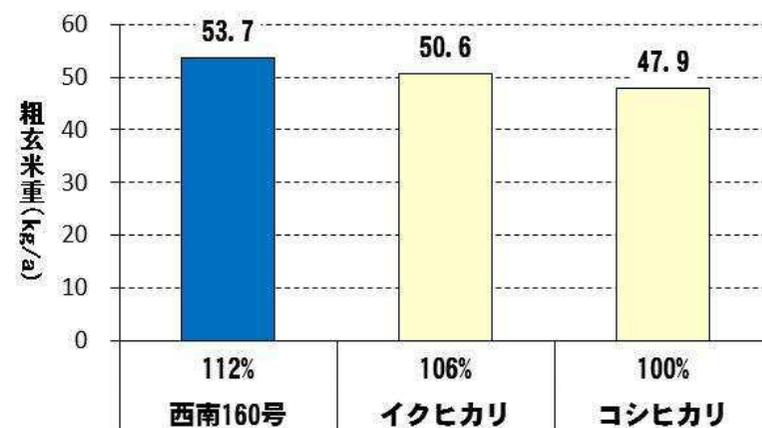
期待される効果

大規模水稻農家の経営安定化、飼料用米の安定生産

鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部作物研究室

【収量(粗玄米重)】

・コシヒカリ対比12%、イクヒカリ対比6%アップ



導入メリット

多収品種(知事特認)として認定。飼料用米として作付けすれば、水田活用の直接支払交付金が交付される

熟期及び用途向け品種の組み合わせによる販路拡大&労力分散による経営安定化

普及対象・範囲

早期水稻栽培農家

(県単, 指定試験事業)